

2018年8月9日
一般財団法人関西観光本部

関西圏における観光統計総合分析の結果について ～外国人旅行者の宿泊に関する動向～

関西観光本部(理事長=松本正義関西経済連合会会長)では、関西を訪れる外国人旅行者の動向について、消費額の大きい「宿泊」に着目し、観光庁による「宿泊旅行統計調査」等各種統計データやモデル地点(城崎・熊野古道)での現地ヒアリング等をもとに、市町村単位での分析を行いました。

分析結果のポイント

1. 外国人旅行者の宿泊エリアに関する動き ～山陰・和歌山県南部エリアが成長～

- ・米子空港へのソウル線・香港線就航の影響もあり、米子市、鳥取市、三朝町などの山陰エリアが成長。
- ・田辺市、白浜町といった和歌山県南部エリアの市町も、自治体のプロモーション等が功を奏し、宿泊エリアとして成長。

2. モデル地点における動き ～城崎・熊野古道ともに市のターゲットは欧米豪～

(1) 城崎

- ・全国と比較して欧米豪の比率が高く、豊岡市がターゲットとする欧米豪を着実に獲得。
- ・タイの比率が高いことも特徴。閑散期を埋めるべく取り組んできた市の施策が功を奏したと推測。
- ・大阪市・京都市から直接 IN/OUT するケースが多く、周辺部の周遊に繋げていくことが今後の課題。

(2) 熊野古道

- ・熊野本宮・新宮エリアは田辺市がターゲットとしている欧米豪を着実に獲得。
- ・田辺・勝浦エリアはアジアが多い。ホテルグループの誘客活動が功を奏したと推測。
- ・欧米豪からの訪日客は成田・羽田の IN/OUT が多く、両空港と連携した取り組みも必要。

3. 外国人旅行者の訪問率に関する動き

- ・訪問率については、関東・中部・近畿の三大都市圏においていずれも減少に転じている中、近畿の減少は微減にとどまっており、訪日旅行の目的地としての近畿地方の集客力は底堅い状況。

※本資料の取りまとめにあたっては、観光庁による「宿泊旅行統計調査」を中心に使用している。

○観光庁「宿泊旅行統計調査」

2017年1月～12月 各月のデータ(第二次速報値を使用)

全国のホテル・旅館・簡易宿所、会社・団体の宿泊所等に対し、従業者数に応じて全数もしくは無作為抽出にてサンプル調査。

市区町村別、従業者区分別において10施設以上の回収があった市区町村のデータのみ公表